様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：３２４０４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｋ１６７８５

研究課題名（和文）日本語学習者に有効な読解教育実現のための読解技術の開発とその効果に関する研究

研究課題名（英文）The effect of Reading Comprehension on Reading Skills of Japanese to foreign students.

研究代表者
田川　麻央（TAGAWA, Mao）

明海大学・複言語・複文化教育センター・講師

研究者番号：５０７３５３６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本語学習者に有効な読解教育を実現するための読解技術について検討した。(1) 文章を読む過程で文章の論理関係の把握、および文章全体の構造への注目が深い理解に影響を及ぼす可能性があることがわかった。(2) 文章の要点関係を図で示す要点関係図を作成するという読解技術（要点関係図作成）は，図を作成することに対する意識要因,(3) 文章の全体構造の明確さ要因も理解に影響を及ぼすことが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study examined what reading skills must be included in reading education to effectively teach Japanese to foreign students. Results suggested that (1) when reading a sentence, one’s ability to focus on the logical relationship between pieces of information in that sentence and the overall structure of the sentence led to profound understanding of the sentence. (2) Creating graphic organizers to graphically illustrate relationships between key components of a sentence (creating graphic organizers) is a reading skill. Attitudinal factors with regard to creating graphic organizers and (3) factors related to the clarity of the text structure also affected one’s level of understanding.

研究分野：日本語教育

キーワード：第二言語としての読解教育　文章構造　日本語学習者　日本語教育　読解ストラテジー　説明文

１．研究開始当初の背景

近年，グローバル化により日本の大学や大学院への進学を目指す留学生の受け入れは増えており，第二言語としての日本語習熟度が発展途上であっても，日本語で文献や資料を読んで要点を把握し，文章全体の内容を理解すること，そこから目的に沿った情報を引き出し，活用していく読解が求められている。

その一方で，留学生の中には，第二言語だけでなく，母語での読解力が十分に備わっていない学習者がいると指摘されている（二通, 2005）。

これまで日本語の読解技術や教材開発は進んできているが，日本語学習者の読解過程が具体的に考慮されることは少なかったと思われる。そのため，日本語での読解教育において，うまく読めない原因に焦点を当てた明示的な読解技術の指導は，ほとんど行われていないのが現状であろう。また，読解技術には有効に働く条件があり（Vital & Romance, 2007），それを日本語学習者においても探る必要があると指摘されている（石井・田川, 2010）。日本語での読解教育の場面で，学習者がうまく読めない原因に的を絞って読解技術を明示的に指導するためには，どのような学習者にどのような文章において有効なのか解明する必要がある。

日本語学習者が日本語でうまく読めない原因の一つとして，文章の単語や 1 文の意味はわかるが，全体の内容が把握できないということがある。母語での読みと比べて日本語での読解は，単語の認知や 1 文の文法解析に費やす認知的負担が大きく，文章の要点と詳細情報を区別し，要点と要点，要点と詳細情報を論理的に関係づけるといった 2 文以上の文章の処理に制約が及んでいる。

そこで本研究は，読解過程における文章処理が促進される具体的な読解技術を取り入れ，その読解技術をどのような文章をどのような学習者が読むときに用いれば文章の理解が促進されるかという有効に働く条件を解明するために，研究を進めることとした。

２．研究の目的

本研究は，文章の処理が促進されるための具体的な読解技術を取り入れ，どのような文章をどのような学習者が読むときに文章の理解が促進されるか有効に働く条件を解明することを目的としている。

具体的な読解技術として，文章から要点を選び出し，その要点間の関係を示した図を作成するという要点関係図の作成活動を取りあげる。具体的には，以下の 3 点を明らかにすることを目的とする。

（1）文章の処理が促進される読み方とはどのようなものか。

（2）どのような文章において要点関係図作成活動の効果があるか。

（3）どのような学習者に要点関係図作成活動の効果があるか。

３．研究の方法

本研究の対象者は，調査への協力を自ら希望した中国語を母語とする中級，上級レベルの日本語学習者であった。調査協力者には，調査の前に，途中で中止を求めることもできなど研究倫理遵守に関わる説明を行い，許可を得たうえで，調査を実施した。材料として用いた文章は，説明文であった。

（1）文章の処理が促進される読み方とはどのようなものかについて明らかにするために，上級レベルの日本語学習者を対象に発話思考法を実施し，その後①文章理解度テスト，②推論テストを行った。発話思考法とは，文章を読みながら考えていること，思いついたことをその都度，声に出して発話するというものである。収集した発話データから読み

方と理解の関係を検討した。

（2）どのような文章が要点関係図作成に効果があるかの検討については，材料の文章を全体構造がわかりやすく明確になるよう修正した文章と，全体構造がわかりにくい不明確な文章に修正したものを用意した。構造の明確さの違いについては，予備調査で確認した。調査協力者には，全体構造の明確な文章，あるいは不明確な文章を読んで，要点関係図を作成する課題を実施した。読解後，①②のテストにより，文章の特徴が要点関係図作成に及ぼす影響を検討した。

（3）どのような学習者に要点関係図作成活動の効果があるかについては，読解時の図作成に対する意識をアンケートとインタビューを実施した。その後，文章を読んで要点関係図を作成する課題を行い，①と②のテストを実施した。これらにより，読解時の図作成に対する意識と要点関係図作成に及ぼす影響を考察した。

４．研究成果

（1）文章の処理が促進される読み方を検討するために学習者の発話データと文章理解テストを検討した結果，次のようなことが明らかになった。文章の定義と例示を関係づける発話，文章全体の構造に関わる発話が多く出現していた学習者は，文章から得た情報を新しい状況に応用した推論テストの成績が高いことが示された。その一方で，推論テストの成績が低かった学習者の発話には文章の定義と例示を関係づける発話，文章全体の構造に関わる発話は見られなかった。本研究で扱かった文章のように，あるメカニズムに関する説明した文章は，定義と例示の論理関係で文章が展開されることが多い。その場合，上位の定義とその下位にある例示の関係を把握するとともに，その定義を他の状況に置き換えて活用していくことが必要となる。文章を読んでいく過程で定義と例示を正しく関連づけていくとともに，全体の構造に注目しながら読み進めていくことで，目的に沿った情報を引き出し，活用していくことができる可能性が示唆された。

（2）文章の全体構造の違いが要点関係図作成に及ぼす影響について検討した。その結果，文章の全体構造の明確さによって文章理解度テストの成績は差が見られなかった。推論テストでは，成績の差がみられ，全体構造の明確な文章を読んだ学習者が不明確な文章を読んだ学習者よりも成績が高いことが示された。以上より，文章の全体構造の違いによって，要点関係図作成の影響は異なるがことが確認された。不明確な構造の文章を読んだ学習者は，要点関係図を作成することで，要点が整理され，首尾一貫した表象の構築が促進されたかもしれないが，文章から得た情報と既有知識を関連付けることは難しかったと考えられる。その一方で，明確な構造をもつ文章を読んで要点関係図を作成する場合は，内容を整理することに多くの認知資源を使う必要はなく，文章の内容と既有知識を照らし合わせ，関連付けることができたため，知識構造を変容させる一助となった可能性が考えられる。

（3）どのような学習者に要点関係図作成活動の効果があるかについて検討したところ，普段から読解時に図を作成したりして負担感を感じていない学習者の要点関係図作成は，負担感がある学習者の要点関係図作成と比べて，文章理解度が高いことが示唆された。このことから，読解時に図を作成することに対する意識の違いは文章理解度に影響を及ぼすと言えよう。

以上をまとめると，文章の論理関係と全体構造への把握が深い理解に影響を及ぼす可能性があること，要点関係図作成は文章の構造的特徴や学習者の図に対する意識によって効果が異なることが示唆された。知識を獲得するための読解では，文章から目的に沿った情報を引き出し，活用していく深い理解が必要とされる。今後は，要点関係図作成の効果を踏まえ，文章の論理関係と全体構造の把握が促されるプログラムを開発し，検討することが課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　1 件）

①田川麻央，　内容理解を目的とした読解過程でのストラテジー使用　：日本語中上級学習者を対象に，　日本語教育方法研究会誌, 査読なし，Vol. 23,　No.2,　pp.18-19, 2017.

〔学会発表〕（計　2 件）

① 田川麻央，　内容理解を目的とした読解過程でのストラテジー使用　：日本語中上級学習者を対象に，第 48 日本語教育方法研究会 2017 年 3 月 18 日，宮城教育大学.

② 田川麻央，　異なる文章構造の理解における要点関係図作成の影響，北京日本学研究センター設立 30 周年記念国際シンポジウム　2015 年 11 月 21 日，北京外国語大学.

６．研究組織

(1) 研究代表者

田川麻央　（TAGAWA,　Mao）
明海大学・複言語複文化教育センター・専任講師
研究者番号：50735363

(2) 研究協力者

方穎琳（FAN,　Yinglin）
中南大学外国語学院日語系・講師

楊昉（YANG,　Fang）
湖南大学外国語国際教育学院日本語学部・講師